2024年度 自己評価報告書

星稜高等学校

具体的取り組み	評価の観点 達成度判断基準	評価	評価の分析と改善の方策
教務課			
時間割変更をミスなく行い、生徒に確実に授業を提供する。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	B	できる限り振替をし、授業時間の確保に最大限努力した。ただし、振替のミス、ホワイトボードへの転記ミスについては多少あったので、慎重に行っていきたい。
ミスが起こらない環境づくり、システム運用を行う。また、情報共有を確実に行い仕事の無駄をなくす。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	A	マニュアルを見てもらうだけでなく、作業の直前にやるべきことをスペース等で教務課から連絡したことで、昨年度と比較してミスはほとんどなくなった。来年度以降も継続していきたい。
新学習指導要領の改訂に伴い、それに対応する学習評価方法を検証する。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	A	各学年、各グレードの評価、大学の推薦入試等での評定の取り扱いなど、旧課程のものと比較して検証できた。
進路指導課			
国公立大学への進路の実現を希望する生徒・保護者が多い現状を踏まえ、各学年と共同し、1年生には学習習慣の定着とより適正な文理選択を促し、2年生にはキャリアに繋がる学部学科研究を行う中で、早い段階から受験意識の向上を図る。	満足度指標 A：全学年70%以上 B：全学年60%以上 C：全学年50%以上 D：全学年50%未満	A	学校評価アンケートの「進学指導が充実している」の項目において、1年生は72%、2年生は74%、3年生は87%という結果となった。今後は、学年・コースを問わず、より大学受験を明確に意識した学習習慣の定着を図りたい。
3年ホーム担任の先生方が安心して進路指導業務に取り組めるよう、また3年生が一般入試・推薦入試の区別なく、自らの第一志望の進路にしっかりと向き合うことができるよう、きめ細かに環境を整備していく。特に国公立大学においては、130名以上の合格者数（現役120名以上）を目指す。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	B	上記項目で同学年過回として比較すると、2年次77%→3年次87%へと大幅に上昇した。新課程となり様々な変更があった中、2学期版調査書の作成・点検実務において、共通テストの実施日に絡みスケジュール的にタイトな課題等もあり、ご心配をおかけした。
進路指導課主導の企画や発行物、また毎週金曜発信のClassiメールを通じ、生徒の学習状況や最新の進学情報について正確に伝え、教職員は勿論のこと、保護者・生徒とも十分に情報を共有しながら、ひいては進学実績の向上に繋げていく。	満足度指標 A：合計70%以上 B：合計60%以上 C：合計50%以上 D：合計50%未満	A	学校評価アンケートの「進学指導に必要な情報は、生徒・保護者に対し十分に提供されている」の項目において、全体の満足度が 58%→85%→86%→87%へと3年連続で上昇推移した。今後ともこの満足度を保持していきたい。
生徒指導課			
あいさつ運動を更に推進することにより生徒の自発的な挨拶を促し、教職員や外部の方々との爽やかな交流を通して、笑顔の溢れる学校生活の場を築く。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	B	自発的な挨拶はいまだ難しく、個々の生徒があいさつをさらに自然とできるよう、まずは職員から積極的な挨拶を心がけたい。 東金沢駅ではかなりの生徒が挨拶を返してくれるようになっていると地域の方からもお褒めをいただいた。
通学マナーを向上させながら、地域に貢献できる指導を目指す。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	B	アンケート結果では非常によい結果だが、自転車通学者や公共交通機関を利用する生徒のマナーに関しての苦情がたびたびある。生徒の主観と客観には大きな隔たりがあり、マナー指導を徹底するだけでなく、教室でも集団の一員としての振る舞いを指導していく必要がある。

特色教育課			
「総合的な探究の時間」における教員の役割を明確にし、スムーズな生徒の活動を導けるようサポートする。また、生徒の活動を適切に評価するルーブリックを作成し、生徒の活動目標を明確にして主体的な探究活動の推進を促す。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	C	年度が始まる前の事前準備、教員間のコミュニケーションが十分でなく、担当教員に多大なストレスがかかっている状態で探究活動が進められた。次年度は教員の連携体制づくりのための会議を学期ごとに開催する。
各学年で受験する小論文模試の事前指導を提案し、受験後のフィードバックも確実に実施することで、生徒の思考力・判断力・表現力の向上につなげる。小論文指導を総合的な探究の時間の中にも落とし込み、3カ年の明確なビジョンと指導計画に基づいた指導を行う。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	B	高校3年生対象の希望者模試に関しては、募集から実施への流れ、質問への対応などスムーズに業務を展開することができた。しかし、探究活動と小論文の関係作りに関してはうまくいかず、次年度はこの両者を切り離して考えていく予定である。
答えのない時代、国際関係がより重視される社会で活躍できる人材に生徒が成長できるよう、土曜講座GSPをより幅広い学問分野で構成されたものに工夫し、適正な進路選択や学力向上に寄与する。今年度もSTEAMの各分野の充実を図り、Bコースの生徒の参加率を高める。	参加率指標(Bコース) A：各学期40%以上 B：各学期30%以上 C：各学期20%以上 D：各学期20%未満	C	1年生の1学期の参加率は47%、2学期は38%。2年生の1学期の参加率は41%、2学期は28%。例年以上に2学期の落ち込みが大きく、2学期の講座の中には受講生が2名の講座もあった。次年度は開講講座数や募集方法のあり方を再検討してゆく。
総務広報課			
総務部門 学校諸行事の運営が円滑に進み、支障のないように、各学年、各課と綿密に連絡を取り、事前準備を進める。 ＊入学前オリエンテーション　＊入学式 ＊後援会総会　＊保護者対象説明会 ＊保護者懇談会　＊推薦入試・一般入試 ＊推薦専願合格者説明会　＊卒業式 ＊入学説明会　＊机・椅子の移動	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	B	コロナ禍が明け、通常通りの行事が戻った1年目である。早めの準備を心がけ、多くの先生方の協力もあり、無事に行事が実施できた。12月から翌年4月まで重要な行事が続くため、余裕を持って準備し、円滑に実施できるようにする。
広報部門 スローガン「GROW SEIRYO」を主軸に据え、本校の教育理念や教育実践を魅力的に発信していく。 1.今では周知徹底されてきた感がある「ICT教育、土曜GSP、推薦入試、中高一貫理数コース」などをさらにどう魅力的にみせていくか模索する。 2.「新たな健康習慣への取り組み」に対し、正確な情報発信をし、安心安全な学校像を後押しする。 3. 本校の長年の看板である「コース制や制服」なども、時代に合わせ変化をしつつあるのであれば、必要に応じてタイムリーに伝えていく。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	B	昨年度の反省申し送り事項を改善する形で、概ね業務を遂行することができた。一方で例年と同じという反復作業が油断につながった場面もあった。特に外部発信するものは、細心の注意を払い多数の目で確認するよう気をつける。また、新制服の導入や中高一貫校へのシフトチェンジなどの今後に控えている大きな変化を、どのように魅せながら生徒募集へと繋げていけるのか、後手に回らぬよう早めに情報を得ながら模索したい。
特活課			
生徒会活動および委員会活動において生徒の自主性・主体性を重んじ、活発に活動が行われるように支援する。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	A	生徒会活動では、体験型の企画であるモルック大会を開催し、多くの参加者を集めた。運動会では部活動対抗リレーを主催し、学校全体に活力をもたらす一大イベントとなった。また、能登豪雨や歳末たすけあい募金活動などの慈善事業も積極的に行い、生徒会活動の深化が見られた。さらに、県主催の生徒会役員交流会にも参加し、他校の活動から多くを学び、精力的に活動に取り組むことができた。

各部がそれぞれの目標を設定し、目標に向かって努力できる環境を整える。部活動加入率70%以上を目指し、文武両道の実現を図る。	成果指標 A：70%以上 B：65%以上 C：60%以上 D：60%未満	A	今年度6月時点での部活動加入率は72.8%で、目標としていた70%を超える結果となった。新入生を対象に部活動の PR を効果的に行うと共に、各部が大会等の目標設定とプロセスを大切にすることで、より魅力的な活動となるように支援したい。
自己の健康課題について認識させ、個別の保健指導を実施する。視力・聴力および歯科検診の受診率向上を目指し、保健だよりにクラス毎の受診率を掲載する等、受診意識向上に繋げていく。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	B	各検診における要受診者の受診率は、視力20%、歯科17%、その他はほぼ100%であった。視力・歯科の受診率には反映しきれていないものの、昨年度の反省を踏まえ、保健だよりによる啓発記事の掲載や未受診者に対する再通知を再三実施し、保健指導を充実させることができた。来年度も保健指導を通じて、自己の健康課題の認識向上に努めたい。
情報システム課			
情報システムを安定して稼働させ，業務が効率よく行えるように維持する。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	B	特に，Windows アップデートや，iPad アプリのアップデートがあるときには，回線が混雑してしまった。校務に大きな支障を出さないために，法人のシステム統括課と中高校舎の回線混雑状況を密に共有し，運用していく。
本校の情報資産を，機密性・完全性・可用性という情報セキュリティ 3 要素の確保を行い正常に維持を行う。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	A	日々のメンテナンスにより，問題なく情報セキュリティの3要素を確保することができた。今後も利用しやすい環境が維持できるように，運用していく。
入試業務に関しては情報共有を密にし，ミスの起こらないように進めていく。特に Web 出願に関しては前年度との変更点(日程等)の確認を確実に行い運用していく。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	B	年に1回の作業であること，対応可能な人材がわずかであることもあり，確認作業が十分であったとは言えなかった。今後，システム対応可能な人材の増員と研修は必要であり，マニュアル等での操作の確認も徹底していく。

《次年度における校務改善に向けて》

2024 度より、『自学自創』という星稜独自の標語を掲げ、『主体的に学び、自らの力で未来を切り開く創造力』を育て、多様な進路希望の実現に応える学校を目指している。そこで、2024 年度より特色教育課を立ち上げ、生徒のニーズに応えていく体制を整えてきたが、さらなる本校独自の探究活動のさらなる充実をはかる。また、様々な場面で、生徒が自ら考えていくことへのサポート体制を構築するため、組織改編を行い、進路指導課から進路支援課へ、生徒指導課から生徒支援課へと名称変更し、指導から支援への意識をもって教育活動を行う。また、2025 年度には入試戦略課も新設し、さらに効果的な広報活動を展開する。